

令和4年度 自己評価結果公表シート

学校法人 四葉学園

四葉幼稚園

1、本園の教育目標

人間形成の土台となる幼児期に、キリスト教教育を基盤にして一人一人の子どもの個性を尊重しつつ、その個性を伸ばし、子どもの心身の成長・発達を促し、とりわけ心の教育・精神教育を重視している。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

新制度発足後子どもを取り巻く環境が複雑になる中、さらなる幼児教育の充実を図る為、保護者のニーズを確認・検討しながら、幼稚園の役割を教職員全体で把握し幼稚園でしか出来ない教育の追求の継続を図ること。新型コロナウイルス感染症の緩和・第5類への移行後も、流行・拡大に万全の注意を払い、年間のカリキュラムや行事をどう進めていけるか柔軟に考える。
保育所・認定こども園では得られない真の幼稚園教育を提供する。

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育内容を見直し、変更 改革に取り組む。	新幼稚園教育要領に基づき、教師全員の共通理解を深め、教育内容の掘り下げ・取り組み・努力を引き続き図った。
保護者のニーズを理解し、保護者への対応に努力する。	保護者とよりきめ細かな話ができる様に懇談会等の充実、キンダーカウンセラーの先生の カウンセリングの実施・教員に対しての研修、日常保育において保護者の満足を得られる様に、教師全体での話し合いを進めている。
教師自身の成長の為の研修の参加充実。	自園だけではなく、教師自身が自分を見つめる機会を得て成長する為に、他園及び園外の研修に積極的に参加してきた。本年も、リモートでの研修や対面での研修をうまく使い保育の知識や技術を習得している。
現段階における幼稚園の状況を的確に受け止め、今後の目標を改めに策定する。	幼稚園の位置付けをいかに个性的かつ進歩的な教育が提供出来るか、又 認定こども園との明確な違いを表明する為に、より高度な課題を追求している。
安全に配慮した環境づくり(施設の改善)	今年度も耐震診断及び耐震補強工事を 完了しているので、園庭の環境整備、定期的な遊具の点検・清掃を実施している。又、新しい時代に合った大型アスレチック遊具の導入した。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員各々が各自の仕事に責任を持ち、本園の教育理念を理解すると共に、常に話し合いの場を持ちながら更なる教育・保育の充実を図る努力をした。

また、どの学年の教師も担当する学年だけではなく自園の教育を理解し、すべての子どもに実践していけるよう、取り組みや状況を話し合うことで、本来の大事な幼児教育を提供することが出来るようになってきている。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
各年齢児における日常保育のさらなる充実	教育・保育の内容を丁寧に分析し、新しいものと古いものとの融合を実践しながら高度な幼児教育を考慮する。
安全管理マニュアルに基づく防災・防犯体制の確立	各自が園内の避難経路や役割分担を自覚して、安全に対する意識の向上に努め、所轄の消防署から消防士を招き、火災避難訓練、不審者に対応する為の防犯訓練、防災(地震)訓練の実施。 自園の地震・災害・防災マニュアルの見直し。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき点はなく、妥当であると認められる。早朝保育の継続、通常預かり保育の時間延長、長期休暇預かり保育の実施・延長、休日(土曜日)預かり保育の実施 等、保護者のニーズに答えると共に園児に対する有意義な教育・保育を進めている。又、満3歳児クラスをより広めるためにも、プレスクール(2歳児親子教室)との連携を図りながら内容を考慮し、平成28年度より始めたナーサリー(満1歳児親子教室)を定着させ、一貫した連携保育ができるように宣伝活動に努力している。

現在の社会情勢において倫理的・道義的に高度な教育がなされている。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されている。